



2013年10月20日発行

〒462-0058 愛知県名古屋市北区西志賀町5丁目4番地
最年少のNPO 特定非営利活動法人 全国こども福祉センター

E-mail : k0domo@yahoo.co.jp TEL : 090-5109-7052 FAX : 052-912-7101

全国こども福祉センターの紹介

居場所のない「こども」へ「安心できる居場所」を提供し、役割を与え、社会参画の後押しをしています。

施設の子どもだけに限らず、社会から孤立している子は多く、一般家庭でも母子・生活保護世帯、また、両親が存在しても非行問題を抱えており、より専門的な支援の必要性を感じます。

支援してきた一般家庭である「当事者」と、街頭で出会った仲間と一緒に法人設立に至りました。



* 活動内容 *

非行防止

着ぐるみで街頭パトロール。冬は気温0度の極寒、夏は35度を超える炎天下の中、活動。主に主要駅や青少年が出入りする場所を狙う。年間6回以上地域の行事やステージに出演。歳が近い高校生らが中心で非行防止の寸劇を行う。

コミュニティ

安心出来る居場所を提供。サロンを開き目標や役割を与える。サロンの雰囲気作りや楽しい企画も当事者中心で行い、大人はサポート側に回る。一ヶ月で約200名以上のこども若者が参加する企画もしている。

相談事業

アウトリーチ重視。電話・メール・面談だけでなくコミュニティや街頭での直接相談を行う。支援機関は増えているが、従来の「相談待ち」の体制では、本人からのSOSは来ない。複雑かつ対応の難しい事例が増えているため、従来とは違う「待たないスタイル」「24時間」体制で相談を受けている。

* 高校生スタッフ紹介 *

2013年1月に設立総会を行い、5月に名古屋市から認証を受けNPO法人になりました。予想以上に若いメンバーで構成されていると思いませんか。

- ・井上奈津（南陽高等学校1年）15歳
- ・杉山柊斗（東洋調理技術学院1年）15歳
- ・石垣実里（東洋調理技術学院1年）16歳
- ・岡本萌（新川高等学校2年）16歳
- ・藤本さやか（東邦高等学校2年）17歳

彼女たちとは情報誌等の呼びかけではなく、全員「街頭パトロール中」に出会いました。

外に出ることでボランティアに「興味がない」と言う子も巻き込んで行き、高齢者や地域を支える「青少年リーダー」を育てていきます。



* 活動実績・助成金 *

地道な活動が評価され以下の基金から助成を受けることになりました。

- ①こどもゆめ基金(25年度後期)
- ②PSM協力会(名古屋)
- ③愛知モリコロ基金(後期・初期活動)

理事長挨拶 鮎谷慶菜 (社会人 22 歳)

母は薬物中毒で暴力的。私が小学生のときに刑務所に入り私は祖母・祖父に育てられ、母が出所してからは障害者手帳を持つほど重い精神病を治すため病院に通っていますが、未だに働いていません。

私の家は母子家庭ですが、母の実家で祖母・祖父・叔父と一緒に生活をしているため生活保護はもらえません。家は家族の物で溢れていて私の部屋を作るゆとりはなく、リビングの一畳もないスペースを使っていました。暴力や「死ぬ」などの暴言も日常的にあつて**現在も落ち着ける場所は、ないです。**

・・・それが私にとっては普通でした。

卒業してからは興味を持てるものがなく、専門学校も中退。何となく毎日過ごしていましたが、この団体の荒井さんと出会い、仕事を始め、色んな社会経験と経済的自立もさせてもらえました。今は「自分」と似た環境にいる子の手助けができればいいなと思い、活動を支える立場となりました。

知識不足で皆様に迷惑をかけることもあると思いますが、これからもよろしくをお願いします。

実習を終えて 沼田悠希 (椋山女学園大 20 歳)

「全国こども福祉センター」に出会ったきっかけは、5月にボランティア実習があり、実習先として活動させていただいたことでした。数あるボランティア団体の中で、この団体は、学生が主体となって、イベント等を企画運営しており、「楽しくボランティアできるなんて素敵」と**最初は楽しさに惹かれました。**

活動していくにつれ、スタッフ含め現代の青少年が抱えている問題を知り、重大で複雑な社会問題になっている事に気づかされました。

目に見えなくても、誰にも言えず悩みを抱えています。喫煙、飲酒等の非行・自傷行為・社会からの孤立、自分に気付いてほしい、**大人や周りに助けを求め方がわからなく、迷走している姿ばかり見てきました。**

そういった現状を「なんとかしたい」と強く思い、居場所のない「こども」を救える、この団体の活動に意義があり、自分のやりたい事だと思い、実習だけで終わらず**現在も活動を続けています。**助けを求めている「こども」に気付いて、自分から手を差し伸べていきたいと思えます。

「南山大学」で授業を行いました！



講師 3 名・学生スタッフ 7 名 計 10 名派遣
5 講座開講。60 名以上の受講者。

* 講座ピックアップ *

講座名：児童養護施設と一般家庭の支援 (荒井)

受講者の感想

・もっと早く、この団体を知りたかった。興味深いと思った。非行防止などの活動に参加したいし、もっともっと話が聞きたい。

(愛知教育大 2 年)

・自分には関係ないと思っていたけど、身近に困っている人がいることと、まだ高校生だけど私にも何か出来るということがわかった。

(椋山女学園高 2 年)

・初めて今日、福祉のことを学んだ。周りにも「伝えたい」と思った。実は自分の身の周りにも似たような子どもが居て、接し方がわかった。

(大同高 1 年)



活動実績一覧

実施月日	事業名	活動内容
12月8日、12月23日	クリスマス講演会 & Party	約240名参加。社会福祉士による講演会と交流会を開催。楽しむだけでなく虐待やいじめ防止啓発の内容を盛り込み、遊び半分で来ていた多くの若者に真の目的を伝える。
1月27日	設立総会・アンケート開始	15～19歳の当事者らとNPO法人設立総会を行う。イベントごと非行予防・未成年の飲酒喫煙に関するアンケートを開始。
3月31日	着物着付け体験・交流会	正しく着付け、着崩れ防止と文化振興を図る。学生らも企画に参加し始める。
5月19日	名古屋市主催NAGOYA学生EXPO2013参加 	当事者の高校生が出演。音楽やダンスを発表する中で、当団体だけがステージで社会問題を訴える寸劇を行う。いじめをテーマにしたものと「大学生・高校生らが主催する飲酒PARTY」に潜入して注意した時の様子を描いた実話を演じた。当時、警察も介入し会場は騒然となった。当団体はその主催していた学生団体から厳しい批判を受けたが、名古屋の大学生全体に大きな衝撃を与え、それ以降、未成年を巻き込み、飲酒をするサークル等は激減した。(会場:名古屋中区栄もちの木広場)(図:YouTubeで動画配信中)
6月9日	名古屋大学で会食パーティー 	若者約80名参加。非行予防の会食交流会を実施。パーティーの前半は交流を重視。また、後半では参加者を巻き込み「未成年の飲酒」をテーマに、青少年の身近に起こりうる問題を取り上げ、臨場感溢れる寸劇を披露した。(図:名古屋大学南部食堂を貸し切り)
7月13日、7月14日	愛知サマーセミナーにて5講座開講	講師3名と当事者をスタッフとして派遣する。児童養護施設だけでなく一般家庭の支援の必要性を受講者に伝えた。受講者とのネットワークや関係作りも重視した。
7月20日	名古屋みなと祭り 街頭パトロール	中高生が飲酒・喫煙していたり、水商売のうちわを持っている現場に多数遭遇。根気よく声をかけたり、指導・啓発活動を行った。その場でやめてくれたりスタッフ希望者も現れた。
7月27日、7月28日	中川金魚祭り ゴミ拾い&街頭パトロール	中高生が祭り会場内で酒盛りをしていたが、警察は素通り、祭りの主催者側も、ためらわず、販売をしていたため、主催者に指導を行った。少年達に指導するだけではなく、本人や親から直接話を聞くなど、積極的に関わりを持つようにした。
8月3日	安城市七夕祭・ラジオ出演&街頭パトロール	22時を過ぎても、中学生が駅ロータリーにたむろしており、声をかけると飲酒・喫煙をしていたため、指導する。初めて学生スタッフも少年達と関わり、指導の難しさを体験した。
8月4日	安城市七夕祭りで浴衣着付け体験	約40名の学生が、文化交流を図った。
9月15日	愛知県主催ほぶかる3 ステージ出演	身近に起こりうる、初対面での「連絡先交換」をテーマに、携帯電話や情報ツールによる危険性について、寸劇を披露し、会場に訴えた。

継続事業として

- ・毎週末に街頭パトロール(月 4 回)
- ・定期サロン～居場所提供(月 2 回)
- ・24 時間相談・保護・アウトリーチ支援(年間 200 件以上)

近日の予定

「わくわくサロン」の開催日

11/10 (日)・11/30 (土)・12/21 (土)

中区松原学区センター 13 時～初参加大歓迎です!

・2014 年 1 月 26 日には名古屋市と共催で

「ぼらチャリ 2013」を開催!

・2014 年 2 月 11 日(祝)子どもゆめ基金助成活動で

着物(浴衣可)着付け体験交流会を開催!

下図：祭りの主催の横で酒盛りしている中学生



施設出身者対象の奨学金説明会に参加して

井上奈津 (南陽高等学校 1 年)

・NPO 法人タイガーマスク基金
・山口福祉文化大学 ・日本福祉大学の方が来ており
今回、児童養護施設や里親のもとで育った子どもたちのための奨学金制度についての説明を聞きました。

児童養護施設で育った子どもや里親家庭で育てられた子どもを対象にした奨学金制度が多かったのですが、母子家庭で経済的に苦しく、それでも進学したくて悩んでいる人がたくさんいることも知っていた。きたくて「一般家庭の母子家庭の人達が受けられる奨学金制度はありますか」と質問してみました。

数はかなり少なかったのですが、是非その奨学金制度だけでなく、母子家庭で施設に入っている子ども達への支援はもちろんですが施設に入っていない子ども達への経済的に厳しい状況にある子ども達への奨学金制度も、充実させてほしいと思いました。

私にとっては難しい内容でしたが、今回学んだことを自分だけでなく、周りで困っている人にも伝え、進学に悩む友達や後輩へ手助けしたいと思いました。

(9/22 日本福祉大学名古屋キャンパスにて)

最年少 NPO へ 皆さん、ご指導お願いします！

高校生スタッフも街頭で声をかけます

各種募集と協力をお願い

(1) 学生ボランティア・インターン・実習生 随時、受け入れています！

- ・ 広報・事務局運営 ・ 自立支援
- ・ 企画や事務作業 ・ 地域行事の盛り上げ
- ・ 名古屋市や愛知県主催行事の参加

(2) 会員募集・寄付のお願い

今後、こどもたちへ安定した居場所を提供し、生命を守り、社会復帰に繋げていくために「仮住居」の確保や運営を継続していくことが必要です。活動を支えてくれませんか？

・正会員（個人）

初年度のみ 5000 円（入会金 2000 円含む）
二年目以降 3000 円 ※ 学生会員は 1000 円

・賛助会員・サポーター概要

個人様 継続的な寄付 月 1,000 円
もしくは 年間 12,000 円の一括寄付
団体・法人様 継続的な寄付 月 5,000 円
もしくは 年間 60,000 円の一括寄付
※年 4 回、会報誌を送らせて頂きます。

そのほかに「サロン」のご招待はもちろん

- ・ イベントの告知・ご招待
- ・ ホームページに掲載致します

下記口座までお願いします

※三菱東京 UFJ 銀行 尾頭橋支店
店番 286 普通 0062632
トクテイヒエイリカツウハウジン
ゼンコクコどもフクシセンター

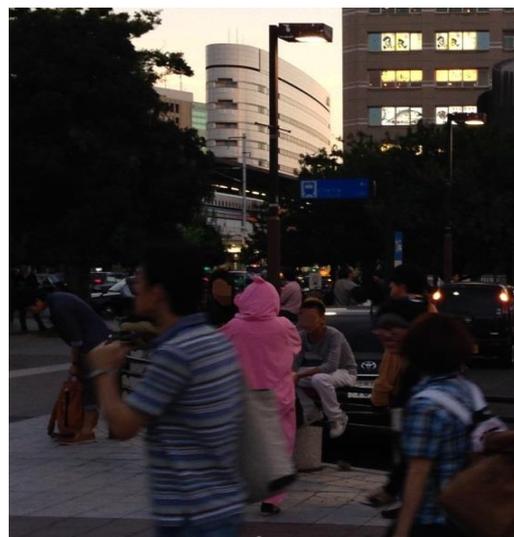
※郵便振替：12110-3565607

【他金融機関からのお振込は下記】

店名：二一八(ニイチハチ)

店番 218 普通預金 3565607

特定非営利活動法人 全国こども福祉センター



《こどもの取り組みを社会に広める》

街頭で草の根的な活動にも力を入れていますが、活動継続と「こども」の救済には私たちの「存在」を知ってもらうことが不可欠です。

かかわる一人ひとりの方に、活動の“伝道師”になってもらい「全国こども福祉センター」を広めていただければ幸いです。

未来ある若者の活動を応援しませんか？

《他にこんな方法があります》

- ・ Web サイトにバナーを貼る・シェアをする
団体のサイトや、個人のブログなどに、バナーを掲載していただければ幸いです。

*メディアの方へ

報道をきっかけに、ボランティアや寄付で
ご支援を始められた方もいます。

ぜひ取材をご検討いただければ幸いです。
お知り合いにマスメディアの方がいる方は、
活動をご紹介いただければありがたいです。

* 講演や授業・出演依頼について

講演会等のプレゼンター・各行事のステージ
に呼んでいただけてきました。

教育・こども・非行問題・児童養護問題等、
幅広くご依頼に対応致します。

申し込みは 090-5109-7052 (担当：荒井まで)

街頭パトロール・学生を連れての夜回り活動

中川金魚祭り 2013/7/27・28

祭礼行事や花火大会・名古屋駅西口・金山駅など若者が集まりそうな場所を狙い、街頭パトロールを行う。

厳しい暑さ、寒さの中も街頭に出る。一人で始めたこの活動は法人化後も継続。「街頭」で出会った仲間や学生、当事者の子ども若者等が加わり、多い時には10人以上引率することもある。

座り込み、タバコ、飲酒し、駅などで「たむろ」している中高生。不登校や保護観察中の子、家出中、学校に行っていない子も多い。



図1 駐車場スペースや路上で酒盛りをする中学生集団

非行の恐れがある少年に一方的に呼びかけをするのではなく、実際に話しかけ会話をする。そのほうが本音を聞けるし少年少女の「実態」を把握できるからだ。



図2 酔って暴力を振るう先輩も・・・

図1は「中川金魚祭り」ゴミ拾いしていると、酒盛りをしている中学生15～20人のグループに遭遇。

彼らと会話し学年や学校名を確認する。14歳～16歳の少年少女であった。

すぐ真横に祭りの主催本部があるにもかかわらず、堂々と酒盛りし喫煙もしており、次から次へチューハイの缶も持ってくる。酒盛りは止まらない。さらに地元の先輩や後輩が合流し、お酒の缶は増え、ポイ捨てのゴミも路上に増えていく。

酔いが回ると、少年が少年を蹴り飛ばし暴言等も飛び交っていたが、周囲の人は見て見ぬふり。警察の見回りも27日においては1回のみで、素通りであった。

「それにしてもどこから少年たちはお酒を買ってくるのだろうか？」と疑問に感じ、周りを見ると主催のテント横で販売しているブースを発見。アルバイトと思われる女性店員は何も気に止めないのか、少年たちに酒を売っていた。

店員と主催本部に「彼らは明らかに少年です。年齢確認し販売をやめてほしい」と指導を入れる。少年たちにも直接指導する。上から目線にならないよう本人たちの身体の心配をし、「少しずつ減らしていこうね」と伝える。素直に話を聞けない子が多いが、逆に真剣に聞く子もいた。

少女A（16歳：高2）は「先輩の命令に逆らうとリンチされたり殴られたりする。」と言う。

安城七夕祭り 2013/8/2・8/3 街頭パトロール・ゴミ拾い

高校生スタッフは21時までで帰宅させ、安城駅南口でパトロールを続ける。祭りの余韻に浸り、21時を過ぎても帰ろうとしない中学生集団10人余りと遭遇。早く帰ろうと指導するものの、彼らはタバコとビールを持っており、回し飲みをしていたため、じっくり話をする事となる。

少女たちにおいてはスマートフォンのアプリで送ってくれる男性を探しており、「アシ」が見つかるまでずっと携帯をいじっている。



図3 座り込む中学生女子13~14歳 安城駅

少女は全員母子家庭だった。「家にずっと帰っていない」という子もいた。男子は家庭の不満は特に言わないものの少女たちに絡みたいという思いや大人に対しての好奇心が強い。

0時頃、暴走自転車を運転する少年も駅ロータリーに現れる。しかし、セルシオに乗ったコワモテの男性に「止まれやガキ！」と言われ、少年たちはしばらく拘束され説教を受ける。辺りは緊張感と危ない雰囲気を感じたので、荒井も自転車に乗っていた少年たちに付き添う。しばらくして巡回パトカーも来るが、その現場を素通りして行ってしまう。

30分程で話が終わる。ほっとした少年たちと少しやりとりをすると、「親に殴られた。楽しいから暴走している。今は家出している最中だよ。」と言う。

少年に名刺を渡し、数人の子に連絡先を教え、「親が心配しているよ。困ったら連絡しておいで」と伝える。



図4 暴走自転車と黒セルシオ

一部の少年らは迎えの車が来たため11時半頃帰宅。少女らはB市在住とのことで何度も帰宅を促したが、迎えも来なかったため、0時過ぎにスタッフの杉浦・柘植に送ってもらう。

記事: 社会福祉士 荒井